



豪華客船寄港（飛鳥Ⅲ）

No. 80
Spring

しょうどしま
だより
議会
だより

contents

- 3月定例会
予算審議の質疑
- 一般質問
5人の議員が質問
- 議会あれこれ

2026 令和8年5月1日発行

小豆島町



令和8年度

136億6900万円 持続可能性のある町へ

令和8年第1回定例会（令和8年2月25日～3月13日）

条例案件3件、予算案件10件、その他案件2件、諮問2件、発議2件が提案され、慎重審議の結果、原案通り可決されました。



クルーズ船歓迎

一般会計予算

審議の質疑

産業の再興

雇用基盤の強化

Qクルーズ船誘致事業の費用は？

A寄港1回あたり17万円で、乗船客・クルーへのお土産や記念品、歓迎セレモニーに係る費用などであり、8年度は15回分を予定している。

Q小豆郡雇用モデル推進事業とは？

A特定地域づくり事業協同組合をつくって労働者を雇用し、人手不足の事業所へ派遣する仕組みである。人材を確保し、地域活性化につなげる。

公共交通の確保 港の再整備

Q池田港のモビリティステーションの整備とは？

A自転車やレンタカーの貸出場所を1カ所に集約。池田港の東屋付近に建設する予定。



モビリティステーション整備予定地

安全安心施策の推進

Q津波・洪水ハザードマップの配布は？

A津波のマップを見直し、配布予定。洪水は新たに作成し、ホームページで公表する。

集落活性・空き家活用

Q空き家の家財処分の補助導入の経緯は？

A空き家バンクへの登録は、家財の処分に時間がかかる。負担を軽減し、スムーズに進めるため補助制度を創設した。

教育施設再編による 教育子育て環境の充実

Q内海小学校の開校までのスケジュールは？

A4月から体育館等の工事も発注し、本体工事とあわせて12月末に工事終了の予定。



内海小学校完成図

特別会計予算 審議の質疑

Q「子ども・子育て支援金」制度の上乗せ保険料の計算方法は？

A国保は、被保険者数などから率を算出し、後期高齢者医療保険は保険者が統一の率で計算する。

Q特定検診の受診率を上げるために何を行うのか？

A新たに検査項目を増やす。
Q介護保険施設の今後の見通しは？

A存続の検討を進めていかなければならない。

▶個別意見

- ①小豆島グリーンセンターや中間処理施設の整備について、早期に方向性を検討されたい。
- ②捕獲したイノシシの減容化施設整備を積極的に進められたい。
- ③奨学金貸付事業について、収納対策室と連携し、未収金の回収に努められたい。
- ④小中学校と小豆島中央高校との連携を深め、県・土庄町と協力し、島の教育の方向性を検討されたい。
- ⑤国指定の天然記念物の「誓願寺のソテツ」が特別天然記念物に指定されるよう取り組まれたい。



連合審査会予算審査（3月3日～5日）
 一般会計予算は3日間にわたり審査され、次の個別意見を付して原案通り可決されました。

「特別会計予算」

- 国民健康保険事業
17億 8231万 3000円
- 後期高齢者医療事業
4億 1433万 4000円
- 介護保険事業
21億 8248万 5000円
- 介護サービス事業
6937万 6000円
- 介護予防支援事業
720万 2000円

「公営企業会計予算」

- 介護保険施設事業
収入 5億 1646万 2000円
支出 5億 5104万 8000円

【個別意見】

介護老人保健施設について早期に今後のあり方を判断されたい。

教育民生常任委員会予算審査（3月6日）
 次の特別会計および公営企業会計について審査し、個別意見を付して原案通り可決されました。

《補正予算》

◎ふるさと納税寄付金

1億8千万円

寄付金の実績見込みにあわせて増額です。返礼品などに充当するほか基金に積み立て各種事業に有効活用します。

◎池田港再整備事業

500万円

2バス化に向けた細部設計や地質調査に係る県負担金です。



池田港再整備

◎オリーブバス運営費負担金

2500万円

4路線における減収分を補填するものです。

町政へ

一般質問

議員が行政全般にわたり、住民の声や自身の調査研究をもとに、町長や教育長などの執行機関に対し、事務の執行状況や方針などについて質問したり、報告や説明を求めたりすることです。

質問内容	質問者	掲載ページ
外国資本の土地の購入はあるか	安井 信之	5 ページ
ウミホテルを小豆島の観光資源に	河井 修	6 ページ
町民のバス運賃割引を	鍋谷真由美	7 ページ
義務教育の負担軽減を		
補聴器の購入補助を		
内海小学校への通学方法は	高橋 淳	8 ページ
遊休地の適正管理と有効活用は	中川 光秋	9 ページ

≡ 動画配信中 ≡

本会議での一般質問の様子を「YouTube」で録画配信しています



こちらから

≡ 傍聴できます ≡

本会議はどなたでも傍聴できます
『傍聴』を希望される方は、本会議当日に、議会事務局までお越しください



こちらから



やすい のぶゆき
安井 信之



質問者の動画は
こちらです

問 外国資本の土地の購入はあるか

答 把握する手段がない

問 昨今、外国人の不動産購入による社会問題がある。首相の所信表明演説でも土地取得等のルールのあり方について検討するとあった。小豆島での外国人および外国資本の土地購入がどのようになされているか伺う。

答 現在、日本では土地を取得する際に国籍に基づく制限がない。本町では、土地の所有者の異動は、法務局からの通知により把握しているが、登記の要件に国籍が含まれていないので、町が国籍を把握することは困難である。しかし、国土利用計画法に基づく土地売買等届出や農地法第3条第1項の規定による許

可申請については、国籍の記入を求めているものもあり、町内では2件ある。いずれにしてもすべての土地所有者の国籍の有無を把握する手段はない。今後、国において議論、制度整備が検討されるものである。

問 国の制度整備の中で、地方としてもいろいろな面でデメリットが出てくると思う。制度の把握はきちんとしていくべきものだ。町内の2件とは。

答 町内在住者でいずれもオリーブや果実を栽培する農地である。国は、個人が不動産の所有権移転登記をする際に国籍情報の提供を義務づける方針で、令和8年度に運用を始める。国の動向を注視していきたい。



国籍情報の提供



かわい 河井 おさむ 修



問 ウミホタルを小豆島の観光資源に

答 観光協会と連携し協力したい

問 ウミホタルは体長3ミ程度のアシカ類で、刺激を受けると青白く光る特徴を持っている。このウミホタルの存在に気付いた町内の人が、昨年の夏からウミホタルの鑑賞会を実施したところ、青白い幻想的な光が観光客にも島民にも人気となり、19回の開催で1200人が訪れるイベントになった。また香川県下では

三豊市の栗島の宿泊施設がウミホタルの鑑賞会を宿泊プランの一つにしている。
小豆島でも、このウミホタルの鑑賞会を、新しい夜型自然体験型観光資源として観光客誘致につなげるべく、町として取り組めることではないか。

答 小豆島において夜型観光資源、いわゆるナイトコンテンツの強化は観光客誘致につながると認識している。

ウミホタルの鑑賞会は、昨年、オーリーブビーチをメインに開催し、

島内外の幅広い年齢層に大変好評だったと伺っている。今年も5月から開催を計画されているように、小豆島観光協会において情報発信を行うほか、町も、オーリーブナビ駐車場の利

用や問い合わせへの対応など、主催者と協議の上、観光協会とも連携しながら、できる限りの協力をしたいと考えている。



ウミホタルの鑑賞会



なべたにまゆみ
鍋谷真由美



質問者の動画はこちらです

問

町民のバス運賃割引を

答 導入が極めて難しい

問 バス運賃が引き上げられ、町民から「外出を減らした」などの声がある。

町民の負担を軽減し、

外出支援をするとともに、公共交通を守るためにも町民のバス運賃の割引を求める。豊島

では、島民割証の発行

で、豊島シャトルバス

の島民割引が行われている。



唯一の公共交通

答 現状のオリーブバスの経営状況では導入が極めて難しい。豊島シャトルバスのように、観光客の利用増が収支改

善につながれば、住民負担の軽減策を講じることが可能である。将来的に観光客を含む利用者が増加し、収支改善が進み、持続可能な運営が見込まれる段階になれば、島民割引制度の導入も含め、オリーブバスおよび小豆2町で検討する。

問

義務教育の負担軽減を

答

一つずつ検討したい

問 小中学校の給食費に続いて、保育料と幼保の給食費無償化実現は大いに歓迎する。

しかし、義務教育は無償と憲法で規定されているにもかかわらず、教材費・修学旅行・制服・標準服・体操服などが自己負担である。子育て世代の負担軽減のために費用の一部を補助してはどうか。

答 経済的に困難な家庭には、就学援助制度により学用品費、修学旅行費等の支援を実施しており、これ以上の拡充は考えていない。

こちらも質問

答

県補助制度の周知を行う

問

補聴器の購入補助を



たかはし じゅん
高橋 淳



質問者の動画はこちらです

問 内海小学校への通学方法は

答 安田自治会・保護者と協議を行う

問 安田から内海小学校への通学路は狭く、内海小学校から丸島醤油までの工事は開校以後に始まり5年程度かかると聞いた。道路工用の車両を含めて通行量が増え、交通事故、最悪の場合死亡事故につながる可能性があると思うが、安田の子ども全員をスクールバス通学にできないか。

答 県内スクールバスの運行状況等を参考に、統合準備委員会で西村地区を除く星城小学校校区、安田校区のうち、安田・木庄地区の児童を徒歩通学の対象とする案を提示した。

この案に対して、安田自治会および安田小学校PTAから、道路工事完了までは、安田地区全児童がスクールバス通学との要望が

あった。

そのため、対応可能案として、1年生から3年生までの児童を対象にスクールバスを利用するという提案をした。また、要望を受け、道路工事区間は、スクールバスを運行しない案も検討している。

児童の安全確保は最優先課題なので、交通安全対策を講じていく。

問 道が狭いところはカーブも多く危険である。児童を安全に通学させることが一番の課題では。

答 子どもの安全は非常に重要だと考えている。現在提案している案について、安田自治会と安田小学校の保護者と十分協議して、ともに納得出来る通学方法について考えていきたい。



狭い通学路



危険なカーブ



なかがわ みつあき
中川 光秋



質問者の動画は
こちらです

問

遊休地の適正管理と有効活用は

答

管理コスト抑制のため売却も検討

問 旧公共施設跡地、学校跡地、草壁港や旧内海庁舎周辺などの町有地が具体的な利用計画のないまま放置され、雑草の繁茂や不法投棄など管理上の課題が懸念される。未利用資産の維持管理コストを抑制し、地域活性化や財源確保につながる必要があるが、現在の遊休地の把握状況と管理体制の現状は。

答 学校跡地や旧内海庁舎跡は具体的な利用計画は決まっていない。学校跡地は統合小学校完成後、既存校舎の活用方法や最終的な解体も含め、地元のご意見を伺いながら検討していきたい。旧内海庁舎跡地は、今後も国道の歩道整備や交差点改良等の事業が数年にわたりに進められ、資材や重機置場等で使用される

と予想されることから、事業完了までの間は現状のままで考えている。問 売却や民間活用に向けた具体的な方針や資産運用の全体的な計画を策定する考えは。答 民間活用や資産運用計画を策定するほどの町有地はないのが現状だが、管理コスト抑制のため、不要な町有地の売却も含め検討していきたい。



旧内海庁舎跡地

令和8年第1回臨時会（1月29日）

条例案件3件、契約案件1件、予算案件2件が提案され、原案通り可決されました。

《契約の変更》

二面分団普通積載車購入事業に係る物品購入契約において、仕様等の変更があり、金額を変更しました。

変更前 802万3020円
変更後 949万円

《条例案件》

職員等の期末手当の率を改定する条例が可決されました。

※なお、常勤の特別職については1人の反対、議員については4人の反対がありました。

《補正予算》

（総額2億2970万円）

◎子育て応援手当支給事業 3123万円

0歳から高校3年生までを対象とし、一人2万円を支給するものです。

◎緊急支援給付金事業

1億3700万円

全町民対象に一人1万円を給付するものです。

全国町村議会議長会表彰

谷康男議員が町村議会議員として15年以上在籍し、地域への発展に貢献した功績が称えられ表彰されました。



◎医療・福祉事業者給付金事業 3300万円

保健医療機関等の公定価格により収入が固定化されている事業者への給付です。

※以上3事業は物価高騰対策によるものです。

◎オリーブ価格下落対策事業 559万円

令和7年産オリーブの価格が豊作により大幅下落したことから生産者の営農意欲減退を防ぐため補助を行うものです。

香川県町村議会議長会研修

令和8年1月20日開催の「AI時代における自治体議会の広聴・広報」と題した広報研修に議員7人が参加しました。議会広報にAIを活用し、新たな切り口やレイアウト作成など、利活用の紹介がありました。



4年間ご愛読ありがとうございました（広報編集特別委員会委員）

編集後記



▼春の光が島を包み、オリーブが新たな芽吹きを迎える季節となりました。

▼2025年度は瀬戸内国際芸術祭の開催年でした。が農村歌舞伎や各地区の例大祭など、島に息づく文化は常に地域の皆さまの熱意と温かい絆に支えられております。

▼この島が守り続けてきた歴史の底力と、次世代への輝かしい希望を感じるとともに、改めて深い感謝の念を抱くところで

▼町議会は、この美しい小豆島を次世代に確実に引き継ぐべく、皆さまの声に真摯に耳を傾け、議会一丸となって施策に取り組んでまいります。

▼新年度のスタートにあたり、皆さまに希望と安らぎが満ちる一年となりますようお祈り申し上げます。

塩田 洋介 記

本紙に対するお問い合わせは

発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4492 香川県小豆郡小豆島町片城甲44-95 TEL (0879) 82-7060 FAX (0879) 82-7061 E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp